

関東アコーディオン演奏交流会 実行委員会ニュース

ホームページ <https://kantoacco.omiki.com/>



第 36 回

3 号

2024.8.23 発行

編集 広報部

9/22 (日)

第 36 回 関東アコーディオン演奏交流会

北区滝野川会館 10 時開始

「重奏・バンド/アンサンブル・合奏の部」

本番まで1ヶ月！ 誘い合って聴きにきて下さい！！



イラスト・キャプション/後平

アコーデオンマン、参上!! みなさまの、やっつけたい敵は何ですか?
わたしは、「あがり症」です!

目次

- 参加協力券普及のお願い・・・2P
- 提出譜面の作り、注意事項について・・・3P
- 第 38 回ビバ・アコーディオンの様子・・・4～7P
- JAPC アコーディオン夏祭りの様子・・・8～11P
- 第 13 回ウインド・バズ・定期演奏会の様子・・・12～14P
- 平和コンサートの様子・・・15P
- Luann Concert を聴いて・・・16～17P
- 「訃報」中山英雄氏『私とアコーディオン』・・・18P
- ホワイトボード・・・19～20P

楽譜の提出期限は 8 月 31 日(土)必着です
右のページ参照！！

参加協力券普及のお願い

関東アコーディオン演奏交流会は、アコーディオン愛好家の交流の場として 36 回目を迎えました。「学びあうためのコンクール」でもあるこの交流会に今回延べ人数 160 名を越えるアコーディオン仲間が出場します。他の楽器とのアンサンブルでは、ピアノ、ヴァイオリン、マリンバ、ハープといろいろな組み合わせで出場されます。アンサンブルを楽しむ方が増えていることも嬉しい傾向です。

日頃一緒に練習している仲間だけでなく、他のサークル、あるいは他の教室などで練習している方たちの演奏を聴くことでお互いに演奏力を高め合ってきました。今年も多くの仲間が聴きに来られると思います。

実行委員会ニュースNo.3 に「参加協力券」を同封させていただきました。夏休み中でもあり、友達と連絡が取りにくい時期かと思いますが、本番まで約一ヶ月余りありますので同封のチラシ並びに「参加協力券」をご活用いただき、多くの方が聴きにきて下さるよう周りの方に是非広めて下さい。

(参加協力券は当日の受付でもお求めいただけます)

《参加協力券 見本》

お誘いの上
聴きにきて下さい！

お待ちしております！



♪ 学びあうためのコンクール ♪

第 36 回 関東アコーディオン演奏交流会

2024 年 9 月 22 日 (日) 開演 10:00 (開場 9:30)

【会場】北区滝野川会館大ホール (北区西ヶ原 1-23)

JR 京浜東北線「上中里」駅東口より徒歩 7 分

JR 山手線「駒込」駅北口より徒歩 10 分

東京メトロ地下鉄南北線「西ヶ原」駅より 徒歩 7 分

連絡先：塚本 044-877-9871

No.

20240922 関東アコ

参加協力券

1,000 円

☐ 精算済み

☐ 当日精算

担当



見本

審査用楽譜の提出について

この要領を熟読し、適切な形の楽譜を作成のうえ提出してください。(HP 上に掲載)

1. 楽譜は 8 月 30 日必着で「8 部」送ってください。
2. 大きさは見開きで、B4 サイズ～A3 サイズにしてください。
3. 表書きは忘れずに記入してください。
 - ①表書きは、楽譜に直接書く。
 - ②表書きをした別紙を楽譜に貼る場合は、コピー用普通紙を使用してください。
 - ③〇〇の部、曲名、団体名を記載してください。
4. 審査用楽譜は、できるだけ見やすいものを提出してください。

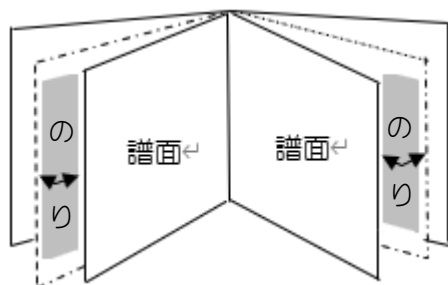
提出していただく楽譜は、審査の際に、審査委員の先生方に、その楽譜にアドバイスを書き込んで頂き、演奏交流会終了後に演奏者にお返しするものです。

5. 楽譜提出先

塚本 五郎 〒216-0033 川崎市宮前区宮崎 6 6 0

044-877-9871 (Tel/Fax) (E-mail) tsuka@mrg.biglobe.ne.jp

《 製本の仕方 》



背中合わせにのり付け

《 表書きの書き方 》



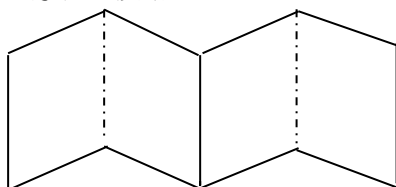
表書きは、楽譜に直接書く。または
コピー用普通紙に書き楽譜に貼る。

ご注意

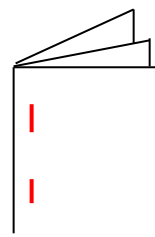
①提出部数が不足 ②表紙の記載事項が不十分 ③製本の仕方が不適切 など
審査用楽譜の作り方が不適切な楽譜が目につきますので注意してください。

不適切な楽譜の例

1. 練習中に先生から受けたアドバイスや覚書メモを書き込んだままの楽譜をコピーしたもの。
2. 一部分、または特定のパートを蛍光ペンでなぞった楽譜をコピーしたもの。
3. ホッチキスで製本したもの
4. 表書きに厚紙を使用したもの



× 横に長く開くもの



× ホッチキスでとじたもの

“ふれあい こんさあと” Vol.38 VIVA;ACCORDION

2024年6月9日(日) 開演 13:00 松原市文化会館

主催 全関西アコーディオン協会(略称 AAA) ふれあいこんさあと実行委員会



ロビーの様子

写真上中央: 楽器展示コーナー

出展: (株)トンボ楽器製作所

楽器メンテナンスコーナー(展示コーナー左)

出展: ネネロロ アコーディオン リペア サービス

右上: 楽譜展示コーナー

出展: アンサンブル・ミュージック

文化会館入り口の立て看板 杉村壽治氏追悼コーナー(ロビー受付前)

開会挨拶 吉田親家(実行委員長)



その時私は事務局長でしたけれど、40年ちかくに渡ってこのビバアコを引っ張ってくださった前会長の杉村壽治さんが昨年12月末、急にお亡くなりになり非常に残念です。今日はきっと空の上から聴

いておられることと思います。コツコツと練習をされたみなさんの努力や工夫を思いきり発揮してください。また、アコーディオンの音色をたっぷりとお楽しみください。(一部プログラムより引用)

プログラムは、第1部【合奏】、第2部【独奏】、第3部【重奏・アンサンブル】の3部構成です。

・写真は、主催に了解を頂き、合奏、及び重奏・アンサンブルのみ掲載させていただきました。

・記事はプログラム順に紹介しています。

・『』は司会による紹介の一部です。

・番号の飛んでいるところは、欠席とアナウンスされた方です。《司会》小泉じゅん子

第1部【合奏】

1. どい川文化の会アコーディオン教室(大阪) 指揮: 吉田親家 演奏曲「山寺の和尚さん」(編曲: 吉田親家) アコーディオン8人による演奏。



2. NHK文化センター 神戸教室(兵庫) 演奏曲「コンドルは飛んでいく」(編曲: 杉村壽治)

伸びやかな演奏です。良く晴れた青空の中大きな羽を広げて飛び去る姿が見えるようです。もう1曲は「80日間世界一周」(編曲: 杉村壽治) きれいな音色です。演奏者も気球にゆられて風と共に空の旅を楽しんでいるようです。メンバーは6人で2曲とも指揮無しでの演奏でした。



3. ぱすとらあるアコ(奈良)「荒城の月」(編曲: 松永勇次)、「ワシントン広場の夜はふけて」(編曲: 吉田親家) ギターがベースを担当。指揮無しの6人で静かな落ち着いた演奏でした。



4. 泉北アコーディオンサークル(大阪)「スタジオジブリ メドレー」(編曲: 向井愛子)、「コンドルは飛んでいく」(編曲: 吉田親家) このサークルも6人で指揮無しです。「コンドルは飛んで行く」は遠くで

の鳴き声だろうかイントロが素敵です。また、風を切るはばたきだろうか、編曲の違いも楽しい。



5. 奈良アコーディオン愛好会（奈良）指揮：岩野努「思い出の唱歌メドレー」（編曲：岩野努）♪浜辺の歌 ♪鯉のぼり ♪夏は来ぬ。「ペルシャの市場にて」は女性3人で優しいきれいな演奏でした。



6. 京阪アコーディオンクラブ（大阪）「いい日旅立ち」、「東京ブギウギ」（編曲：2曲とも小野田幸嗣）指揮無しで5人で、演奏者も身体を動かし楽しんでいる様子が伝わってきました。



7. 松原アコーディオンクラブ（大阪）指揮：吉田親家「シェリット・リンド」（編曲：吉田親家）11名での演奏。優雅な流れの中、メロディーが変わるところからパーカッションが入る編曲も楽しい。「詩人の魂」（編曲：中山英雄）こちらはしっかりと歌っていて素敵な演奏でした。



8. 合奏の最後は、関西アコーディオンクラブ（大阪）指揮：吉田親家「ブラームスのワルツ」（編曲：

吉田親家）この曲は初めて聴きました。「組曲 惑星より“木星”（ジュピター）」ではバスアコを使用していました。3曲目「オクラホマミキサー」（写真）は、指揮者も演奏側に加わりタンバリンでリズムを取っていて明るくまた楽しい演奏でした。



・・・・・・・・・・休憩・・・・・・・・・・

第2部【独奏】番号は第1部から通し番号です。

9. 中川 徹（大阪）松原アコーディオンクラブ

「恋人よ」（編曲：松永勇次）『この曲は杉村壽治先生に少しだけみてもらうことができました』と紹介。メロディーをたっぷりうたい、切なさが上手に表現されていました。

10. 木下まこと（京都）小学3年生 宇根章浩教室「はがきのワルツ」（編曲：宇根章浩）『昨年初めてお父さんと一緒に独奏でビバ・アコに出演、アコーディオン歴は3年』と紹介。昨年は、関東アコ（コンクール）独奏部門のジュニアの部に出場され、「コロボチカ」を演奏し2位になりました。

「はがきのワルツ」はプログラムにF・Bストルーバー作曲と載っていて筆者は初めて聴きます。頭に耳飾りのようなリボンをつけて三拍子で軽やかに演奏されました。

11. 木下直紀（京都）宇根章浩教室「ハンガリー舞曲 第5番」（編曲：M・ジェハク）『去年ボタンアコに替えてまだなれなくて難儀しています』と紹介。木下直紀さんも昨年、関東アコ独奏部門初心者の部A（ジュニアを除く経験3年程度で、鍵盤楽器の経験なし）に出場しVictory Ragを演奏され1位になりました。ベローシェイクを入れたり新たな挑戦をされていました。

12. 江島和泰（福岡）ジャバラ倶楽部「曲がった笛」、「音は続く」（作曲：2曲とも江島和泰）『8歳で出場したときも自作曲を演奏しました、8年ぶりのビバ・アコです』と紹介。オリジナル曲を暗譜で演奏。ピッコロのスイッチを使用していたのか、確かに笛の音に聞こえます。サーカスの二輪車乗りがステージでくるくる回っている姿が浮かびました。2曲目は3拍子です。2曲とも時間が許せばいつまでも続きそうで終わりを感ぜさせない軽快な曲です。

13. 池田俊男（和歌山）金剛アコーディオン教室「白

い恋人たち」、「アメリのワルツ」(編曲:2曲とも、せきたさらい)『ビバ・アコでの独奏は初めてでとても緊張しています』と紹介。音のつながりがきれいな演奏です。

15. 青木 実(京都)吉田親家茨木教室「パリ祭」、「ティコ ティコ」(編曲:2曲とも、堀部隆次)『地元京都を中心に歌う会の伴奏など行っている』と紹介。「ティコ ティコ」は細かいリズムと早いテンポの曲で苦手な演奏者も多いと思うけれど、会場の手拍子を求めるなど良く弾き込んでいる演奏でした。

16. 増谷登志子(兵庫)吉田親家神戸教室「愛の喜び」(編曲:吉田親家)『少しずつできるようになり楽しんでいます』と紹介。ピアノやヴァイオリン、フルートで聴くことがある曲だけど、アコーディオンも素敵ですね。

17. 藤田紀子(大阪)松原智美アコーディオン教室「古いフランスの小さな歌」、「クリステルのかぞえうた」『アコーディオンを習い初めて9年経ち、フリーベースでクラシックの他興味の向くまま取り組んでいます』と紹介。フリーベースのボタンアコで演奏。2曲とも初めて聴きました。最初の曲は昼下りのまどろみの中にいるようです。2曲目は、目覚めてから、さて今日は何から始めようかと動き出す様子が浮かびました。

19. 丸尾知子(神奈川)吉田親家教室「スモール・ロマンティック・トリプティック」よりユーモレスク、「うさぎ」(編曲:三枝成彰)『京都からの参加を合わせると10回目になる。1曲目はロシアのアコーディオン奏者がアコーディオンのために作曲した曲』と紹介。フリーベースで演奏。テンポが速くなっても一つ一つ音がしっかり出ていてとてもきれいな演奏です。「うさぎ」は、♪十五夜お月さん なにみてはねる・・・と歌われるわらべ歌をベースにした変奏曲のような編曲です。

20. いわつ なおこ(福岡)ジャバラ倶楽部「ミュゼットの女王」、「ラ・クンパルシータ」『8年ぶりのビバ・アコで再会を楽しみにしています。タンゴバンド「トリオ・ロス・ファンダンゴス」が昨年、日本タンゴ大賞音楽部門を受賞』と紹介。暗譜はもちろん、気持ちよいテンポでの演奏でした。

21. 独奏の最後は森元 学(神奈川)中部アコーディオンクラブ「マルゴのワルツ」『中部アコーディオンクラブは、愛知県を中心にしたアコーディオン愛好家の団体で、昨年創立55周年を迎え記念コンサートを開催しました』と紹介。森元学さんは2007年の第19回関東アコで松本学さんとのコンビ(まなぶんず)でゲスト演奏されたり、関東アコ主催の伴奏講座にゲストで来ていただいたこともあり、元気な姿を拝見できて筆者は嬉しかったです。

この曲は R・ガリアーノの作曲です。聴いている

とベースの進行に合わせて分散したメロディーの連続なのでとっても難しそう。

.....休憩.....

第3部【重奏・アンサンブル】

22. MAKI & DEKO(大阪)兵藤真規子(フルート) 廣内秀子(アコーディオン)「野に咲く花のように」(編



曲:杉村壽治)、「ブルーシャトー」♪野に咲く・・・はフルートの前奏で始まった。2曲目は、フルートがメロディーのときはアコがベースを刻み、アコがメロディーになるとフルートは対位旋律の音を伸ばすなど楽しい演奏です。

23. 金剛アコーディオン教室(大阪)高橋美智子 池田俊男「川の流れるように」(編曲:木下そんき)、「サンジャンの私の恋人」(編曲:V・Menweg) ゆっ



くりめのテンポで演奏されたけれど、それがかえって切なさを感じさせていました。

24. 豊中アコーディオンサークル「ポンポコリン」(大阪)山崎ゆり子 浅井真由美「スケーターワルツ」、「ミライア」

(編曲:W・Shibasaki)は初めて聴くけどきれいなメロディーの曲です。



25. 弘龍庵大阪アコーディオンクラブ 新谷悠仁(中1) 阪田千恵(中1) 大江寿朗(ピアノ)『中学3年生1人欠席』と紹介。「魔女の宅急便メドレー」(編曲:大江寿朗)ピアノの前奏で始まる。このクラブも毎年参加されていて、筆者は中学生の独奏やアンサンブルが聴けるのを楽しみにしています。



26. 東住吉ミニルームアコーディオン教室(大阪)稲村二一 高橋美智子「瀬戸の花嫁」、「シェルブルーの雨傘」

(編曲:Angela Wirtnerstein)『メンバーは二人です。コロナ



禍でできなくなっていた歌声のつどいも再開するつもりです』と紹介。

27. おかんとおとん（大阪）芝房子（アコーディオン） 田中幸男（ギター）「浜辺の歌」（編曲：加藤繁雄）、「魔女の宅急便」より海に見える街、「ブルータンゴ」（編曲：2 曲とも、田中幸男）『グループ結成 2 年目になる。これから活動の場を広げていきたい』と紹介。アコーディオンはパートごとと音色を替えていたようで、さらにギターのアルペジオが加わることでとてもきれいな演奏です。



28. 土本義博トリオ（広島）土本義博（アコーディオン） 浜村陽子（ギター） 藤井泰志（ドラムス）「スポットライト・ミックスバージョン」（編曲：土本義博）演奏の中で題名のように、ギター、ドラムス、アコーディオン、それぞれソロでスポットライトが当たるように編曲された演奏です。



29. パパガイオス（神奈川）丸尾知子（アコーディオン） 矢田伊織（エレキベース）「天使の組曲」より天使の死、映画「イル・ポストイーノ」テーマ（編曲：2 曲とも、丸尾知子）『夫婦で楽しみに参加、1 曲目はエネルギッシュなピアソラの曲、2 曲目は美しい島が舞台のイタリア映画の曲です』と紹介。アコーディオンはフリーベースで、とっても難しいけれど素敵な編曲です。



2 曲目は、映画を見たことはないけれど、のどかな中にも膨らみがあり、夢の楽園へと誘われていくような始まりです。余韻のある終わり方も素敵です。

現在、神奈川県在住なので、機会があればぜひ関東アコの舞台でも演奏して、関東のアコ仲間に聴かせていただけると嬉しいです。

30. コラソン・ディアマンテス（福岡）いわつなおこ 江島和泰「帰ってきたツバメ」（編曲：いわつなおこ）、「エスパーニャ・カーニ」『親子です。結成 11 年目です、子どもが 6 歳の時からのデュオ』と紹介。



お母さんは赤、お子

さんは黄色、見た目もカラフルです。2 曲とも軽快な曲でテンポも速いのに、みごとに息が合い伸び伸びとした素敵な演奏です。

31. フレア（中部アコーディオンクラブ）大野弘子 加藤ゆかり「枯葉」（編曲：加藤ゆかり）『結成からジャズタイプの曲を演奏してきました』と紹介。肩に赤い花を着け、赤いイヤリングも。



二人は、一昨年、ユニット名「フレア」で関東アコ重奏の部で演奏し 3 位に入賞されています。

「枯葉」はいろんな方が編曲されていると思うけれど、重奏用に自ら編曲できる力は素晴らしいです。

32. 本日最後の演奏になります。カルテット（中部アコーディオンクラブ）大野弘子 加藤ゆかり 平尾ありえ 銀羽功美男「ブエノスアイレスの冬」（編曲：山本京子）『愛知県を中心としたアコーディオン愛好家の集まりです。埼玉県、神奈川県、愛媛県、三重県、岐阜県から参加される方があって、月 1 回の例会や年 2 回の定期演奏会を通して演奏技術の向上や会員同士の交流を図っています』と紹介。

四つの音が混ざっていたはずだけど、一人一人がしっかり音を出していたからなのか、編曲のたくみさなのだろうかすっきりした聴きやすい演奏でした。



閉会の挨拶・・・一つは、いまの演奏を聴いておわかりだと思うけれど、この最後の演奏を多くのみなさんに聴いてもらいたかった。2 つめは、来年は 6 月 1 日（日）このホールで開催します。3 つめは、新しく実行委員になられた京都の木下直紀さんを紹介。京都から大阪へ通うのは大変だと思うけれど、木下さんを中心に盛り上げていきます。また、「“ビバ・アコ成功に力を貸すよ” という方は実行委員会にぜひお越しください」と挨拶。



写真：木下さん「左」を紹介する事務局の中川徹さん。

□木下直紀さんからひと言・・・少しでも続けられたらと思って手伝わせていただくことになりました。皆さんぜひ一緒に手伝いよろしく願いいたします。（拍手）ビバ・アコ、今年もたっぷり楽しませていただきました。（記：乙津）

JAPC アコーディオン夏祭り 2024

2024 年 6 月 29 日(土)開演 13:00 北とぴあ ペガサスホール (北区王子)

前日の雨も上がり、ビルの 15 階にある会場ペガサスホールのロビーでは楽譜の展示なども行われていました。司会・進行(島田彩乃:谷口楽器)から、「今日はアコーディオンならではの素敵な演奏がたくさん聴けるかと思います。演奏が終わった際はどうか温かい拍手をお願いいたします」との言葉で始まりました。

開会挨拶 小川正浩 JAPC 日本アコーディオン振興協議会代表



□東日本大震災に見舞われた 11 年夏に新生 JAPC を立ち上げて 13 年になります。その間、コロナで中断した時期もありましたが、この夏祭りという形では今日で 10 回目になります。いつもこの時期の開催でしたけども 1 回も雨が降っていない。この会に天気も味方してくれているんだろうなと感じています。

今日は 22 組の方々が日本各地、福岡、宮城、長野からも参加されています。プロ、アマ関係なく、先生、生徒も関係なく皆さんこのような会で楽しい演奏を聴かせてくださると思いますので、ぜひ最後まで聴きいただけたらと思います。(拍手)

途中休憩を挟んで 22 組が演奏しました。出場順の紹介ですが、司会による演奏後のインタビューはこの会の特徴でもあるので、曲の紹介と併せてひと言ですが載せました。『』は司会の言葉、「・」は筆者の感想、「司。」は司会の質問など、「A.」は演奏者の返答です。

また写真は、会場で許可を頂いた方、教室の講師の許可を頂いた方は載せさせていただきました。声をかけられなかった方はお許しください。

1. 西之原育実(イケバアコーディオン教室・千葉クラス)「indifférence」『アコーディオンに



惹かれて、約 6 年前に音楽経験 0 から習い始めました。毎日 30 分時間を作り練習しました』・流れるような安定した刻みで、音量もしっかりして、重音が素敵でした。暗譜です。司.トップバッターで緊張しましたか。 A.かなり震えました。

2. 宮本健太郎(行くよ!サラサラ小川教室)「銀河鉄道 999」(編曲:小川正浩)

『約 2 年前アコーディオンに興味を持ち昨年 9 月からレッスンを開始して、本日目標としてきた夏祭りで精一杯演奏して聴いてくださる皆さんとこの夏祭りを楽しみたいです』・目が不自由とお見受けしました。だけど、音感やリズムがしっかりしているので、1 年足らずと聞いて感心しました。

司.何がきっかけで始められたんですか。 A.アニメ

が大好きで、ある場所で「レビレル」を聴いて、こんなことが一人でできるんだと思ったことがきっかけでアコーディオンに興味を持って始めました。

3. 青木希羅(イケバアコーディオン教室・千葉クラス) Fascination」(編曲:フランク・マロッコ)



『コロナをきっかけに電子アコーディオンを購入しました。独学ではどうにもならずちゃんと弾けるようになりたいと思い教室へ通い始めたのが 2 年前。演奏者として初めての参加です』・十分な音量で

流れるメロディーが素敵。暗譜で演奏していました。楽器はボタンアコです。司.Vアコーディオンですか A.初めて買った V アコーディオンです。司.普通のアコーディオンとは違いますか。 A.響きがすぐくあるのでこちらで練習するようになりました。

4. 山田太洋(音楽センター・森教室)「ミ・アモレ」『松岡直也のこの曲を演奏したいと思って練習しました。右手と左手でそれぞれ



複雑なシンコペーションを刻むので練習はとても大変でした。ラテンのリズムにのって楽しく演奏したいと思います』

・初めて聴く曲です。イントロが変わっていてベースラインに特徴がある演奏です。暗譜で演奏されたけれど強拍の位置が通常的位置と違うので苦労されたと思います。司.ラテンの曲でした。 A.なかなかむずかしくて合わせるのが大変だった。司.アレンジはご自身で、 A.いいえ、ピアノ譜を借りてそれを基にしました。司.ベローシェイクが特徴的でした。 A.はい、力の限り動かししました。

5. 伊藤 悠(パティオはなおか)「演歌メドレー」北酒場・好きになった人・お祭りマンボ(編曲:伊藤悠)

『アコーディオンで演歌を演奏したいと話したら「良いよね」と話が弾み、懐メロの演歌をビデオで練習してきました』・祭りをイメージした衣装で登場、立奏です。ベースがチューバのような音色で楽しい演奏でした。司.楽しい!、この衣装は。 A.今年はお祭りマンボを弾きたかったのでイメージしました。司.ベースが気になりました。 A.ベースが特徴的で、ストレートな音が出る。(ブンチャ、ブンチャと弾い

て見せたけれど、太い音が出ます)

．．．．．休憩．．．．．

6. 小畑桃子 (行くよ! サラサラ小川教室)「ピア樽
ポルカ」(編曲: 小川正浩)

『とっても緊張していますが楽しく弾いて、無事演奏
が終わったらおいしいビールが飲みたいです』・二拍
子の刻みにのせて軽やかで素敵な演奏です。 司. ビー
ルは好きですか。 A. ビールが一番好きです。

7. 岡 寿美枝 (松原教室)「Adios Nonino」(編曲:
Hans-Gunther)

『アコーディオンを始めてから5年ほどです。ようと
く弾きたい曲が少しずつ弾けるように感じられてきま
した。今日はアコーディオンを始めた頃から弾いてみ
たかった曲を弾きます。ピアソラの亡きお父さんノニー
ノに捧げた美しい曲です』・ベローの切り返しが上手
なのでしょうメロディーがきれいです。

司. 始められて5年ぐらいですか。 A. 始めたのは10
年ぐらい前ですけど、家族が入院していた間練習でき
なくて実質5年ぐらい。 司. 他に何かピアノとか。

A. 小学校から高校生ぐらいまでピアノを弾いていま
した。大学で上京し、ピアノを弾く機会が無くなって、また
弾きたくなくなったとき、マンションなのでアコーディ
オンだったらできるかなと思って鍵盤アコを買ったけれ
ど、アコーディオンとピアノは全然別物でした。

アコーディオンはハーモニカと一緒に空気を送らな
いと音が出ないので、まずジャバラをマスターするの
が大変でした。 司. ピアノとの違いって A. アコー
ディンの音色を好きな方って、哀愁がある音色であつた
りするかと思います。ピアノはピアノの良さがありま
すけど、アコーディオンはまた別な、いろんな音が出せ
ますから良いなと思っています。

8. 石井美緒 (平山 尚教室)「Ole Guapa」



『アコーディオンを平山尚氏に師
事。左手のリズムと右手の響きを大
切にアコーディオンで表現する方
法を学んでいます。』

JAPC アコーディオン夏祭りには
毎年参加していましたが、昨年は初
めて演奏をせずに全ての演奏を客席から聴きました。
そこで初めてこのイベントのおもしろさの一つは、全
国の様々な教室から20代から80代まで幅広い年齢層
やアコニストが次々に演奏することかなと感じ、それ
ならまた演奏で参加しようと思いました』

・随所で使われている細かい装飾音符がとてもきれ
いな演奏で。タンゴらしく切れ味も上手に表現されて
います。いつも暗譜で立奏し、膝でリズムを取るだけの
動きで楽器をコントロールされるので毎回感心して聴
いています。 司. いかがでしたか A. 去年客席から
全部聴いて演奏者の幅が広いのがこのイベントの私
はおもしろいところだと思いました。改めていろんな
人が出たら良いのになと思います。

9. 二重奏 Jucgiocy 本田千香 (音楽センター・大田
教室) 須藤範子 (音楽センター・柴崎教室)「帰っ
てきたツバメ」(編曲: 須藤範子)



『親子で演奏されたのを聴いて
感銘を受けた須藤範子がデュ
オ用にアレンジしました。
Jucgiocy バージョンの帰っ
てきたツバメはかなりおてんば
でやんちゃなつばめたちで

す』・二人とも立奏でボタンアコ2台。二人のベ
ース音がピッタリ合っていて気持ちが良い。空中を飛ん
でいるときのスピード感を感じます。また、曲の紹介に
あるようににぎやかな演奏です。巣の中の雛が餌をほ
しがって鳴いている姿を想像して聴いていました。

10. 大木和香奈 (イケベアコーディオン教室・千葉
クラス)「The Petite Waltz」(編曲: Frank Fusari)



『2回目の参加です。去年は勇気
が出ずお客さんとして聴いていま
した。いろんな方々が堂々と演奏
されているのをみて、発表の場
に出る大切さを感じて次はぜひ参
加しようと決心しました』

・音色をいろいろ変えて楽しい演奏です。サーカ
スの空中ブランコや綱渡りをしていうようでもあるし
初めて聴くおもしろい曲です。

司. アコーディオンを始めて何年ぐらいですか A. 8
年ぐらいです。 司. スイッチの切り替えもたくさんあつて
大変そうでした、来年も出てくれますか A. はい。

11. 森 美千子 (クラシックアコーディオンラボ)
「ミュゼットの女王」

『新しく買ってしまった楽器がとてもミュゼットに
合う音色なのでレパートリーを増やしたいと思っ
ています。ミュゼットといえば必ず名前が挙がる曲にや
っと今年挑戦できました』・ピンク色のボタンア
コーディオンです。巴里には行ったことはないけれど、
遊園地でくるくる回るコーヒーカップに乗ると、この
ような曲が流れて動き始めるのかなと想像すると楽
しくなります。

司. 今日はどちらから A. 福岡から昨日飛行機で来て
羽田で天候が悪くぐるぐる旋回して遅れて着陸したの
でそのままホテルへ直行しました。この楽器はギリギリ
機内に持ち込みできました。だけどほぼ10キロある
のでそれをよしと機内の棚に載せるのに力が無く
て、知らない乗客に助けられました。これから筋
トレをやらなければならないことを実感しました。

司. 楽器はオーダーですか珍しい色ですね A. この楽器
を見せるために今日やってきました(笑)。中古です、
ボタンも真っ白です。こうやって話すといろいろ教え

てくれる人がいるのでネットワークってとても大事だと思います。 司.紙のアコーディオンを発行されている A.2011 年頃から作り続けていますが、最新のを持ってきているので関心のある方はお持ち帰りください。

12、中島 航（トンボアコーディオン教室・松本教室）「Oblivion」

『オブリビオンはゆったりした曲ながらも弾いていて楽しい。普段は公園で練習をしていて人前で弾く機会が無いので今日は集中して演奏したいと思います』

・ボタンアコで暗譜で演奏しました。 司.練習されている公園には人がいると思いますけど A.東京って誰も話しかけてくれないので研鑽の余地がある。今日は楽しかったし、出場して良かった。



（フリー）オリジナル曲「うつろい」 『アコーディオンに興味があっても楽器が高価なために二の足を踏んでしまう人に向けて安価で小さなアコーディオンでも楽しめることをお伝えできたと思っています。本日私が使うのは12ベースのミニアコーディオンです。

マイナー調のベースボタンはないのですが、この楽器で今日はマイナー調のオリジナル曲をご紹介します。

「春といえば丸い、丸い形に掛けてもらったやさしい言葉はいつまでも人を支えてくれていると思いませんか？」という気持ちを歌った歌です』

・立奏で弾き語り、今回は腕にはめる人形とおしゃべりしながらの演奏でした。 司.ピンクのかわいい楽器です。 A.春をイメージしました。 司.今日、相手は A.いつもパペットを連れてくるけど、今日は出張に行っていて遠くから私を見守っています。 司.お仕事は A.デザインの専門学校で講師をしながらイラストレーターの仕事もしています。

14、大塚銀河（フリー）「Style Musette」『アコーディオン弾いています。今日も弾きます』

・暗譜で演奏。この曲でジャバラを叩く前奏で入るのは珍しい。スイッチを切り替えたりといろいろ工夫されています。 司.アコーディオンを弾く方には憧れの曲ですよね、背が高いですけど楽器は（46鍵）この大きな楽器でミュゼットを弾かれてすごいなと思いました。

15、水谷風太（音楽センター・大田教室）「Rondo Capriccioso」 『とうとう中学3年生になりました。中学に入ってから JAPC 夏祭りは期末テストの最終日でしたが、今年は一週間早めに頂きありがたかったです。今日も頑張って弾きます。来週7月7日東京文化センター小ホールの Accordion Lovers Night vol.1 に出演させて頂きます。こちらどうぞよろしくお願いします』

・フリーベースのボタンアコ、小刻みに刻むベース

が印象に残ります。右の刻みも細かいし、時折現れるベローシェイクの刻みは身体全体が震えています。フォルテ→ピアノなどのコントロールが素晴らしい。どこまで進化するのかとても楽しみです。



司.始めて何年ぐらいになりますか A.四歳ぐらいからですから11年ぐらいです。

．．．．．休憩．．．．．

16、アンサンブル（五重奏） Coucou! Accordéon（くく！アコーディオン）イケベアコーディオン教室・千葉クラス「Air Orchestral Suite No.3 in D major, BWV1068」『本日演奏する曲は通称G線上のアリアとして親しまれている名曲です。それぞれの



パートの調和がとても美しいです。みんなアコーディオンが好きで、この仲間が好きで苦しみながらも楽しんで

練習をしてきました。バッハの美しいハーモニーを心をこめて演奏したいと思っています』

・ボタンアコ4台、鍵盤アコ1台。ゆったりした曲だけれどリード楽器の特徴あるオルガンの響きの広がりを聴いていると、次第に森の奥へと入り込んでいくような気持ちになります。

司.アコーディオン五重奏ってなかなか聴けないですよ。 A.「ソロと違って仲間がいたので思ったより緊張しなかった」「みんなで合わせるのが楽しかった」

司.こういった機会が必要ですよ。 A.もう一人メンバーがいて、今日は仕事でどうしても参加できなかった。基本的にはうちのクラスで、ちょくちょくみんなで集って演奏したり交流を大事にしています。

17、柴田 潔（アコーディオン奏法研究会 HMML）「ミスターローレンスのリズムあそび」（編曲：柴田潔）『左側のリズム演奏に特化したバックギンギン奏法を主に研究しております。今日は「ミスターローレンスのリズムあそび」という曲で日頃の研究成果がうまく出せると良いなと思います。いろんなことを仕掛けたので耳でさがしながら聴いてもらえ



ると嬉しいです』 ・難解だけれど、じゃばらをたっぷり使って、足で自作のフミカチ（カスタネット）を踏みカチカチ鳴らしながらの演奏です。 司.カチカチ鳴らしていたのは A.打楽器です。ぼくが作って、一応商品名があって、踏むとカチって鳴るので「フミカチ」といっています。

司.左手に特化した奏法ですか A.ブンチャッチャもぼく大好きですけど、それ以外の方が素敵に見えて、それ意外でもできるような方法を考えた。司.バックギン奏法という本を出されているので、気になる方は検索してみてください。

18、村上一郎（東京アコーディオン研究会）
「NANY」（編曲：Joseph COLOMBO）



『フランスのアコーディオニスト、ダニエル・コランさんの演奏は素晴らしく、憧れで弾いてみたかった曲です』・三拍子の曲をボタンアコで演奏。きらきら輝いて流れるメロディーが素敵です。司.難しかったですか

A. CD 聴きましたけれどコランさんのように行かないです。司.ナニーの言われご存じですか A.知らないです。司.調べてみました。元々は、ジャン・コルティという方が演奏していて、ナニーという言葉はジャン・コルティさんの愛称なのだそうです。

19、小原 主（中部アコーディオンクラブ）
「Libertango」『埼玉県からの参加です、グループとしての参加はあったのですがソロ演奏では初参加です。アルゼンチンタンゴの定番曲「リベルタンゴ」を演奏します。知っている方も多い曲なので緊張しますが落ち着いて演奏したいと思います』・どなたの編曲なのか、軽快なテンポでていねいな演奏です。司.埼玉からということですが A.以前は愛知県の方にいまして、そこで中部アコーディオンクラブに入り、今は転勤で埼玉にあります。

20、千田康司（柴崎教室）「GIOCHI DI PRESTIGIO」
（編曲：Gennaro Ruffolo）



『石巻から初参加です。曲は「手品」という意味だそうです』・街角でジャグリングの演技をみているような軽快で楽しい曲です。右手重音で鍵盤を上へ下へと忙しく動くので難しそう。

司.石巻から大変でしたか A.レッスンで東京に来るので慣れています。明日教室の発表会なので今日は東京に泊まります。

21、中尾和正（NAKAO MUSIC）「For Pieces from Renaissance から “Green Sleeves”, Canarios」
（編曲：V. Semyonov）『久しぶりに参加させて頂きます。ここ数年はいろいろな意味で激動の期間でした。その中でこのような催しを継続し、また今年も素晴らしい場所を用意してくださったJAPCの皆様に感謝いたします。演奏曲はグリンスリーブスと古典ギターの曲 Canarios です。アコーディオンの音色と奏法をマッチさせた素晴らしい編曲です』・小鳥のさえずりのような美しい編曲です。ペローシェイクが入るグリンスリ

ーブスは初めて聴きました。また、ベースソロがはっきり聞こえて気持ちの良い演奏です。司.今日はどちらから A.長野から来ました。7月はなかなか忙しくて来られないので、10年ぶりの参加です。また時間を空けてぜひ参加させていただきたいと思います。



22、（最後の演奏）森元 学（中部アコーディオンクラブ）「マルゴのワルツ」



『久しぶりに JAPC 夏祭りのステージで演奏させていただきます。今回は難曲「マルゴのワルツ」に挑みます。皆さんどうぞハラハラドキドキしてください。そして演奏者の不安と苦悩の表情をお楽しみください』

・森元さんもフリーベースです。川面がきらきらと輝き、時々渦を巻いたりしながら気持ちよく曲が流れていく様子が浮かんできます。素敵な演奏です。司.楽器も cobaさんモデル、大きなアコーディオンを駆使して素敵な演奏でした。今日はどちらから、A.埼玉から来ました。私も名古屋に居ましたが、今は埼玉にいます。

閉会の挨拶 真野照久（株）トンボ楽器製作所代表



□今日も様々な演奏、様々なジャンル、様々な楽器、いろんなアコーディオンを楽しめたのではないかと思います。出演された方、こういう緊張感を味わうというのは、人間、たぶん脳にとっても、ものすごく良いことで、アコーディオンやってらっしゃらない方がいたらぜひアコーディオン始めて、来年はこちらのステージに立たれてはいかがでしょうか。

写真下の解説・・・『ドミニック・クラヴィク（ギタリスト、プロデューサーほか）が、バンドのメンバーでもあるアメリカ人カートゥーニスト（漫画家）のロバート・クラム、ベルギーの評論家ヴァン・デン・ブロック氏と完成させた、ミュゼット音楽揺籃。

1920年代および30年代のSP復刻盤LPと、同内容のCD、および同名のイラスト、資料満載の豪華研究書』全てをセットにして貴重なデータを詰め込んだアコーディオンのUSBメモリをオマケにつけて展示されていました。

（担当：前原克彦）



オマケのUSBメモリ



今年も大いに楽しませて頂きました。（記：乙津）

第 13 回ウインドバスカーズ定期演奏会

とき 時代をつなぐ 風たちの詩 うた

2024 年 6 月 30 (日) 開演 13:30 さいたま市プラザ ノース・ホール

主催 ウインドバスカーズ埼玉アコーディオングループ

マスクをされている方は見かけるものの、現在定員の規制はないので、400 席の会場は満員のお客様で始まりました。

プログラムは 2 部に分かれていて、まとめりと小見出しが付いています。

●は小見出し、『』は司会の言葉、・は筆者の感想などです。

《第 1 部》 今 大切なもの から紹介します。最初は、●アコーディオン アンサンブル

・ステージには 5 人がスタンバイ、定刻になると五重奏で「恋のバカンス」(編曲: 松永勇次、※以下、特に記載の無い曲は全て松永勇次氏による編曲です)。メリハリのきいた軽快な演奏で幕が開きました。

挨拶・・・『毎週土曜日川口で練習を重ねているメンバーでお届けしました。この曲は今から 60 年前に大ヒットしました。今ロシアでもよく歌われています』

『次の曲「鉄腕アトム序曲」も同じ頃の曲でアニメーションの主題曲、100 万馬力の力持ち、空を飛ぶ感情を持つ少年アトム。科学技術と人間の調和がテーマになっているようです。水曜日に集って練習しているメンバーで演奏します』

・12 台のアコーディオンとピアノで構成、指揮無しの演奏です。マントのイメージなのでしょう首に赤い布を巻いて背中に垂らして登場。ゆっくりと幕が開くような始まりです。

大空をビュンビュン飛ぶ姿を想像していた筆者は、意表を突かれました。序曲と書かれていたのを思い出しそういう編曲だったのかと納得しました。

司会・・・『ときをつなぐ 風たちのうた、今大切なものはなんでしょう。ステージに流れてくる音楽を聴きながら一緒に想いをはせてまいりましょう』

●アコーディオンソロ (5 人のソロ演奏)

一人目、「ラブミーテンダー」 『私は英会話教室で英語の歌を歌うのを楽しみにしています。この曲は甘いメロディーの歌詞にうっとりしてしまう、お気に入りの曲です。アコーディオンで弾いてみたいなあと思っていたところ、素敵な編曲に出会いました』

・松永勇次氏の編曲とあるけれど、いままで聴いたことがなかった。細かいアドリブがいくつも入っておしゃれな編曲です。終わり方も素敵です。暗譜で演奏しました。

二人目、「レット イット ビー」「ア ハード デイズ ナイト」 『私は中学生の頃からビートルズが大好きでした。今日は自分も声を出しての演奏にチャレンジします』

・合唱団にでも入っておられるのだろうか、声量もあって弾き語りしたくなる気持ちが分かります。暗譜で、二曲目後半は立奏し客席に手拍子を求める姿も慣れているようでした。

三人目、「ロ ケ ベンドラ」。『ロ ケ ベンドラ』とは日本語に訳すと「来るべきもの」になります。この曲はアルゼンチン生まれのピアソラが作曲しました。様々な楽器で演奏されるこの曲をアコーディオン用にアレンジしてもらいました』

・ピアソラの曲ですが、初めて聴きました。夢のなかの物語のように静かに流れるメロディーが印象的です。

四人目、「悲しいワルツ」(編曲: ジョー・エドワーズ 松永勇次) 『この曲はヴァイオリニストが作曲しました。弾くたびにメロディーが変化していく不思議に思った曲です。弾けば弾くほど引き込まれていきます。曲名には「悲しい」とありますが、希望の光が感じられる曲だと思います』

・お花畑の上をチョウチョがひらひら舞っているような情景が浮かんできました。

五人目、「クロードのタンゴ」 『作曲のリシャール・ガリアーノはアコーディオン奏者です。憧れの

曲で先生に編曲をお願いしましたが、左手が非常に難しくて最初は弾けませんでした。粘り強く頑張りました』

・安定した姿勢で音もきれいに流れていて、場面による変化もよく表現されていました。

●アコーディオン オーケストラとソロ ボーカル

(第1部最後の小見出し)

「イマジン」～2024年 いま語りかける～(日本語詞:大熊 啓、※次の曲も同じ)と「ウィ ウィル ロック ユー」 『会場の皆様もノリノリのあの映画の楽しさを分かち合いましょう』

指揮:松永勇次 ボーカル・ギター:大熊 啓 ピアノ:鶴原裕子 ドラムス:佐藤一人。

二曲続けて演奏。

・「イマジン」はギター弾きがたり演奏。(下の写真)クラシックギターの音色で広島、平和、戦争、自由などのことばを聴くと、戦争を体験した世代ではないけれど、命の尊さや平和への希望を想ってしまいます。



『「現実をみろよ」「今この現実をみてほんとうに何も感じないのかい」「ほんとうに大人だったら子どもたちのために今変えなけりゃいけないんじゃないのかい』と語り、2曲目は上着を脱ぎ捨てると、ドラムの「ドンドン パン、ドンドン パン」のリズムが鳴り響きボーカルとリズムに合わせて会場も手拍子で盛り上がりました。最後をくり返し終わりはジャンプで締めた元気いっぱいのエネルギーな演奏で第1部を終了しました。

・・・・・・・・・・休憩・・・・・・・・・・

《第2部》 時空を越えてとどけ! 風たちの音

●アコーディオンオーケストラ

トトロより「風のとおりの道」指揮:松永勇次
ピアノ:鶴原裕子 ドラムス:佐藤一人。

・女性の服装は上は白、スカートは緑色。男性は上は白、ズボンは黒でスタンバイ。アコ16台と

ピアノ、ドラムスで構成。夜も明け朝靄のなか静かに風がながれ次第に明るくなっていく様子を感じさせる、思わず深呼吸をしたくなる爽やかな演奏で始まりました。

●アコーディオンソロ (3人のソロ演奏)

次から独奏が三曲続きます。一人目は「愛の夢～アコーディオン幻想曲～」 『F. リストの曲をアコーディオン用に松永先生が編曲してくださいました。嬉しかったのとピアノとは違う指使いで曲になるのかなあと不安な気持ちでした』

・2部の幕開け演奏「風のとおりの道」を引き継ぐような曲です。爽やかな風がとおり過ぎたところで夢から覚め、窓を開けて空を見上げているような情景が浮かびました。

独奏の二人目は「ソナタ ニ短調 (K9)」 『バッハと同じ時代に、ドメニコ・スカルラッティが作曲したチェンバロの曲です。「生き生きと」と書かれた指示をどう表現したら良いか悩みました。お転婆姫が一生懸命練習しているのを想像しながらお聴きください』

・フリーベースで演奏。たくさん出てくる鳥のさえずりのような細かいトリルがきれいに客席に届いていました。

独奏の三人目は「プレリュードとフーガ イ短調 (編曲:V. アベナイネン)」 『元はオルガンの曲です。バッハに想いを寄せて演奏したいと思います』

・三人目もフリーベースで演奏。じゃばらをたっぷり使っているの伸び伸びと広がりを感じます。独奏三曲とも、第2部の見出しにある風を感じさせる素敵な演奏でした。

●アコーディオンアンサンブル

組曲《エジプトの幻影》より「DANZA (踊り)」(編曲:中野次郎 松永勇次) 指揮:松永勇次 ピアノ:鶴原裕子 ドラムス:佐藤一人

『エキゾチックな世界をお楽しみください』

・アコーディオン5台とピアノ、ドラムスの構成です。アコーディオン5人の女性は、緑のスカートの上に霞網のようなグレーの生地を重ね着して登場。頭にはカチューシャの両端耳のあたりから紐を垂らした姿で、エジプトの画でみる髪飾りを思わせる衣装で雰囲気づくりに工夫をされていました。ドラムの“ダーンダ タッ タッタッタ”

こんなリズムに乗って曲は流れていました。



組曲《エジプトの幻影》より「DANZA」演奏の様子

●アコーディオンオーケストラとソロボーカル

歌劇《POGY and BESS》より「I Got Plenty O`Nuttin」
(俺には無いものばかり) ～愛と自由のうた～
指揮：松永勇次 日本語詞：大熊 啓 ボーカル：
大熊 啓 ピアノ：鶴原裕子 ドラムス・グロッ
ケン：佐藤一人。

『歌に寄り添うオーケストラと言えばガーシュ
インのポーギーとベス。1920年代のアメリカ南部
の港町で肩を寄せ合うように暮らしているポー
ギーが港町に流れ着いたベスと恋に落ち、無いな
い尽くしの暮らしでも心は満たされていると陽
気に歌っています。』

さて、時は流れて100年後の現代、人間の欲望
は周囲にあおられてありのままの自分であるた
めにはどうしたらいいか、コラボパートナーの大
熊啓さんが心を込めて歌います。題して～愛と自
由のうた～をお届けします』(下の写真)



アンコール曲「さんぽ」演奏の様子

・参加者全員登場、女性は緑のスカートで揃え
ていた。実際の劇を見ていないのでそのような場面
があるのか分からないけれど、演奏が始まるとボー
カルが舞台下手からモップを持って登場し掃除
を始める。指揮者にちょっかいを出したりして会
場を笑いに誘う。子どもたちが原っぱで追いかけ
っこをしているようにぎやかな曲です。

●アコーディオンオーケストラ

プログラムの最後は「ジュピター」と「ラデツキ
ー行進曲」の2曲をアコーディオンオーケストラ
で演奏。指揮：松永勇次 ピアノ：鶴原裕子
ドラムス：佐藤一人。

・ジュピターはピアノとアコーディオンソロで
静かに始まります。次第に参加するパートが増え
ドラムスも加わります。淡々とした演奏はプラネ
タリウムに映し出された天空の星たちが移り変
わっていく姿を観ているようです。

『「ラデツキ行進曲」はウイーンフィルのニュー
イヤールコンサートで必ず演奏されます。喜びに
満ちたあでやかな曲です。この曲にはお決まりの
手拍子があります。一緒にお願いします』

・ドラムスのリズムで始まる。まもなくすると
司会の合図もあり開場は手拍子に包まれた演奏
に。時折手拍子はお休みしながらときには“f”
(フォルテ)に、ときには“p”(ピアノ)にと演
奏が続きます。

プログラムはこれで終わりですが、アンコール
の声が飛び、ボーカルの大熊啓さんがみつばちの
姿で再び登場すると笑い大きな拍手に舞台も
一段と明るくなりました。出場者全員、会場の手
拍子も入りトトロのテーマ曲「さんぽ」を演奏。

後ろの5人が立奏したり、みつばちの楽しいパ
フォーマンスで客席也大いに楽しんで、たくさんの
拍手の中終了となりました。

筆者の隣で聴いて
た友達も「松永先生
元気だね、すごいや」
と話していました。
毎回付けるおしゃれ
なタイトルに改めて
ウインドバスカーズ
の想を感じる定期
演奏会でした。(記：乙津)

第42回みんなでつくった平和公園 みんなでつくろうコンサート 2024

2024年7月14日(日) 中原平和公園 野外音楽堂(川崎市) 開演: 17:00

米軍の出版工場だった土地が返還され公園に生まれ変わって42年になる今年も、夏の強い日差しの中で平和コンサートが開催され、川崎近隣のアコーディオン仲間も参加しました。

恒例となったオープニングは、松平晃さんのトランペット「青い空は」で開演しました。参加団体は15団体で、イングリッシュハンドベル、コーラス(二重唱、混声合唱など)、アンサンブル、



太鼓、と様々でアコーディオンの入った団体が3団体ありましたので紹介します。

1つめは、ちゅらリンク(沖縄民謡&ポップス)最初の曲は「ジュゴンの見える丘」2曲目は「満月の夕」構成は、ピアノ、歌と笛、歌とギター、アコーディオンは横浜アコーディオン愛好会の佐藤優美子さんです。沖縄風の衣装で演奏しました。

2つ目の団体は「アコーディオン合同」。日頃交流のある横浜アコーディオン愛好会、鶴見アコ



ーディオンクラブ、音楽センター南部教室、それぞれの元メンバーなどの有志19名が一緒になって合奏に取組み、森陽介氏の指導・指揮で2曲演奏しました。

1曲目は「サウンド・オブ・ミュージック」(編曲: 青山義久)、2曲目は「ボエおじさんの賛美歌」(編曲: 森陽介)で数年ぶりの取り組みとなった合同合奏につかの間の交流を持つことができました。



3つめの団体は、この団体も常連で「国鉄横浜歌う会」(男声合唱)。ピアノとアコーディオンの伴奏で力強く歌う中にも柔らかく温かみを感じる合唱団です。今年のアコーディオン伴奏者(町澤恵さん)は初めて見る方でした。前任者はご高齢のためバトンタッチされたようです。曲は「サンライズ・サンセット」と「僕ら二人は」(編曲: ナッパーズ)。

今年は久しぶりに地元の法政大学第二中・高等学校合唱部(混声合唱)が出場。比較的年齢の高いコーラス団体の多い中で爽やかな歌声を響かせていました。合唱曲は「僕らは生き物だから」と「わたりどり」(作詞: 北原白秋)。

エンディングでは最後に「アピール」(案)を採択して終了しました。

(記: 乙津)

Luann Concert

2024 年 7 月 24 日 (水) 開演 19 : 00 ライブハウスレストラン 中目黒・楽屋

ライブハウスで行われた Luann のコンサートに出かけてみました。会場の「中目黒・楽屋」は、演奏家のチラシで目にしたことのあるライブ会場だけど、出かけたのは初めてです。商店街に面したビルの1階で、50人ぐらい入るだろうが、間近で演奏を聴くので、演奏者の息づかいや表情が手に取るように伝わってきました。筆者は単独だけれど、演奏者に師事している生徒さんや友人たちでいっぱいでした。

プログラムは、お楽しみ Music Box と題して5つの小箱に分かれています。1つ目の小箱から順に蓋が開きお話や曲が飛び出します。

1つめの小箱（♪カオルミュゼット）から飛び出したのは千葉薫さんによるソロ演奏。「パリの屋根の下」を聴いて会場は2分ほどでフランスへ到着します。

千葉さんのかけ声に合わせて会場のみんで“セッキー”とメンバーを呼び Luann の仲間が登場。紹介すると、千葉 薫 (Acc. & Pf) / セッキー (Chat Noir) / 平田陽子 (Vn.) / 管 幸美 (Fl. & Mand.) メンバー4人が揃ったところで2つ目の小箱（♪ボンジュール みなさん）が開き飛び出したのはセッキー。『ボンジュール！さあ皆さんそろそろ日本を離れて心はパリに、みんなをパリに連れて行きますよ！あの辺にエッフェル塔が見えますか？あちらには凱旋門が見えませんか？そしてここはかの有名な通り、分かりますか？そう、シャンゼリゼ通りです！！』とセッキーの挨拶で会場はシャンゼリゼ通りへと導かれます。曲は「おおシャンゼリゼ〜パリカナユ」(下の写真) 遊園地の中へ入ったようです。



ここで2019年に4人でパリへ行き街中で演奏してきた思い出を話された。《パリは観光地なので街中で勝手に練り歩く演奏をしてはいけないけれど千葉さんの従姉妹がエールフランス勤務で在住なので関わってくださって、次はこっちという風に店の中でも道でも3〜4時間練り歩きました》この様子は当時関東アコのニュースに寄稿

していただいたので、読まれた方もおられると思います。また、その従姉妹の妹さんがカメラマンで今日、この会場で写真を撮っていると紹介されていました。

お話の後は「Style Musette」近くで聴いているのでマンドリンの音がきれいに重なって響き素敵でした。続いて「アメリのワルツ」〜「Lanoyée」(2014年国際アコーディオンコンクールで桑山哲也賞を頂いた曲と紹介)

『元々は「アコーディオン2台、ヴァイオリン、マンドリン・フルート・歌」のカルテットでしたが、ベースとドラムスが仲間に加わり六重奏になりました』と、ベースとドラムスとの出会いが語られました。

ここで、小林清明 (Drs. & Perc.) / 林 晃 (Bass) が登場しメンバー6人が揃います。3つめの小箱（♪Deluxe Luann）が開かれて飛び出したのは、国境を越えて「ルーマニアの民族舞曲」。雰囲気はガラッと変わりました。(下の写真) タンバリンの操作が新鮮です。



途中からにぎやかな踊りの曲に変わるとテンポも上がり、ベースの音やときおり入るトライアングルも効果的で身体が動き出します。

続いて「コーヒールンバ」歌(管 幸美)(下の写真)も素晴らしい。



続いての曲「My Favorite Things」と

「Memory:Cats the Musical」は、2曲続けて千葉 薫さんはアコーディオンからピアノに移り演奏されました。

最初の曲には、歌(管 幸美)が入り、2曲目の

「Memory」(下の写真)はヴァイオリンの音が会場いっぱい広がり弦の甘い音色を耳で聴くことの幸せを味わいました。(ヴァイオリン奏者が指導されている弦楽アンサンブルの生徒さんたちが聴きに來ていると紹介されていました)



千葉薫さんは再びアコーディオンに持ち替えて次は「Succession」『海外ドラマの曲で、日本ではあまり流行らなかったのですがカッコいい曲なので聴いてください』と解説。ドラムスのワン、ツウの声で始まる、続いての「情熱大陸」もドラムスのイントロで始まった。ベースとパーカッションが活躍してボリューム感ある楽しい演奏です。



情熱大陸演奏の様子

・・・・・・・・・・休憩・・・・・・・・・・

後半は4つめの小箱(♪Trio)から始まります。アコーディオン、ベース、ドラムスの構成です。まずはタンゴの名曲「Por Una Cabeza」(首の差で)続いて「Indifférence」と「La Valse a Margaux」2曲続けて演奏。ベースの響きに乗って入ります。この曲はソロで演奏される方が多い中で、アコ、ベース、ドラムスのトリオで聴かせる軽快な演奏は新鮮でした。



2つ目の「マルゴのワルツ」は難易度の高い曲だと思うけれど素敵なアンサンブルでした。

この小箱の最後は「Flambée Montalbanaise」この曲は初めて聴いたと思うけど、三拍子で先に弾いたマルゴのワルツにどこか似た感じの曲です。

ここで、サポートメンバーの一人(ベースギターの林晃さん)からひと言『またコロナが増え始めているようですが、ようやくこういう文化的な活動ができるようになりました。皆さんも、足を運んで財布のひもを少しゆるめていただければと思います』と笑いを誘い会場はなごやかに。

さて、5つめの小箱(♪フィナーレ)の最初は「Back to Black」。大きなドラムの音で始まる(歌:セッキー)(下の写真)『セッキーが大好きな歌で、本番一週間ぐらい前に歌いたいと言って歌のレッスンを受けたんです。レッスンを受けた先生から、うまく歌うと言うことよりも歌詞にすごく意味があるので、歌詞を伝えればいいのか、とアドバイスを頂いての挑戦でした』と千葉薫さんによる解説です。



続いての曲は「81/2」(はっかにぶんのいち)変わった曲名です。ここでフルートから順にメンバー紹介があり、続いて「Game of Thrones」この曲も初めて聴きました。そして最後の曲になりました。「場末のJAVA」『この曲は千葉薫の師匠の檜山学の曲』と紹介。この曲には特別な思い入れがあるのでしょうかプログラムにいつも入れているように思います。(アンコールの手拍子に乗って)♪ゆかいに歩けば～ビア樽ポルカ～そして最後は、いつまでも続きそうなジョン・ライアンズ・ポルカ(写真下)で楽しく終了しました。



写真①～④は主催提供、他は筆者。

手を伸ばすと触れそうな距離での楽しい演奏でした。主催の地元では一時大雨だったとか、会場周辺は無事でラッキーでした。(記:乙津)

【訃報】大田(中山)英雄先生(90歳)は、7月12日永眠いたしました。

中山英雄先生は、関東アコーディオン演奏交流会(以下、関東アコ)の審査員を第26回(2014年)まで携われて以降、世代交替されたのでご存じのない方もおられるかも知れません。中山英雄先生が関東アコ発行の記念誌に寄せられた原稿を基に在りし日の中山英雄先生を偲ぶ紙面としてみました。

■私とアコーディオン

1934年3月20日生まれ。

私が生まれて最初にアコーディオンという楽器を自分の目で見たのは戦時中の小学校低学年の頃、四国の徳島で近所のお兄ちゃんが弾いていました。私自身はハーモニカでもっぱら軍歌を吹いていました。

1945年(昭和20年)敗戦の年の7月、米軍機による徳島市大空襲で火の海の中を命からがら逃げるといふ、生涯最大の恐怖体験をしました。全体が赤く染まった空、忘れません。敗戦直後より中学と高校で6年間、音楽部で合唱を体験、高校時代に2年ほどピアノを習いました。

1952年(昭和27年)秋に上京、就職、翌53年(昭和28年)5月に合唱団「白樺」に入団。合唱団の備品にトンボの21ベースのアコーディオンがあるのを見つけ、ピアノの応用で独学で学びました。

1954年(昭和29年)「ビキニ事件」のあと合唱団で、日曜日に3回、新宿駅前で原水爆禁止署名に取り組み、その中でずっと「原爆を許すまじ」を弾き続けました。これが私のアコーディオンデビューでした。

清村杜夫先生に誘われて音楽センター・アコーディオン科講師になったのは1958年～9年頃だったと思います。中央合唱団常任班の演奏活動にアコ伴奏として頻繁に参加していました。それから半世紀以上の時が流れましたが、合唱団とアコーディオンという2足のわらじを履いて歩き続けてこれたことは大きな喜びです。(関東アコ25周年記念誌より抜粋:2015年2月発行)

■自分の肩書きをどう書こうかと考えて一瞬戸惑ってしまったので改めて自己紹介してみたいと思います。(編集注、肩書き、名称は1999年当時)

まずはアコーディオン関係 — JAA 理事、関東アコ講師懇談会メンバー(編集部注:現在:審査事務局と改名)、音楽センター中級中部教室、白樺アコーディオン・アンサンブル、宮寺アコ・サークル、野方アコ教室、東村山老人ホーム・アコサークル「ガルモーニ」等の講師。

コーラス関係 — 合唱団「白樺」団長・指揮者、合唱団「道」常任指揮者、法政大学教職員組合「山びこ」コーラス指導。

その他 — 日本ユーラシア協会(旧日ソ協会)常任理事・文化委員長・同協会所沢支部支部長、日本ロシア音楽家協会・運営委員。

アコーディオン、合唱、国際交流運動と、それぞれの分野で楽しくも、また忙しく立ち回っています。(関東アコ、10周年記念誌より抜粋:1999年発行)



・第19回(2007年)独奏部門で講評を述べる中山英雄先生(板橋グリーンホールにて)



・第22回(2010年)重奏・小アンサンブル・合奏部門の年の打ち上げ会場(滝野川会館地下1階レストラン「けやき」で松永勇次先生とデュオを楽しまれる中山英雄先生。



・第24回(2012年)合奏の部で音楽センター中部金曜教室の指揮をされる中山英雄先生。このときの演奏曲は「満州の丘に立ちて」作曲:シャトロフ 編曲:中山英雄。この演奏は入選されました。(北区滝野川会館に於いて)

□アコーディオン仲間から寄せられた声・・・『アコーディオン、音楽にたいする中山先生の、生涯をかけての真摯な姿勢には、心を打たれております』『長い間活躍されてきた方です。残念です。心からご冥福を祈りたいと思います』等、旅立ちを惜しむ言葉が寄せられております。

関東アコでは、第1回(1989年)～第19回(2007年)、第22回(2010年)～第24回(2012年)、第26回(2014年)の審査員をされました。

後輩の指導にも熱心に取り組まれ、最後はベットのの中から指導されていたとも伺いました。

中山先生がアコーディオンと共に過ごされた人生の1ページを振り返りながら心よりご冥福をお祈りしたいと思います。(編集部)

..... **ホワイトボード**（連絡はがきその他より）

関心ある方は、ホームページなどを開いて確認していただければと思います。

.....
♪谷口・サンデートーク『アコーディオンを語る集い』♪

<https://taniguchi-gakki.jp/sunday.html>

タニグチ・サンデートークを動画で観ることができます。視聴可能な数が増えています。

.....
♪かとうかなこ氏♪ <http://www.katokanako.com/index.html>

.....
♪田ノ岡三郎氏♪ <http://tanooka.net> ※一例を転記

2024年9月1日

LAST TANGO 【東京】雑司ヶ谷 エル・チョコロ 開演：15：00 会場 4：30

出演者：柴田奈穂（VI.）江森孝之（Gt.）西村直樹（B.）田ノ岡三郎（Acc.）マヤン（Vo.）

チャージ：4,500円＋ドリンク代

ご予約・問い合わせ：エルチョコロ Tel:090-7739-0777 E-mail:info@el-choclo.com

.....
♪牧田ゆき氏♪ <http://www.planet-y.co.jp/makita/>

.....
♪大塚雄一氏♪ <http://www.hi-ho.ne.jp/acc-ohtsuka>

ジャズコンサート 大塚雄一デュオ 世界の音楽をアコーディオンの音色に乗せて！

2024年異世代交流 第194回@3F ホール 触れて 聴いて 楽しんで

日 時 2024年9月7日（土）開演 13：30～3：30

会 場 さわやかプラザもとまち ◇JR「国分寺」駅南口より京王バス「府中駅」行き「藤塚」下車1分

出 演 大塚雄一（アコーディオン&唄） 寺屋ナオ（ギター）※缶ビール・ジュースの販売をします。

参加費 500円

問合せ 042-312-0045 さわやかプラザもとまち

.....
♪ともしび♪ <https://tomoshi-bi.co.jp/> 出前うたごえ公演スケジュール 他

.....
♪第16回 千葉アコーディオンコンサート♪

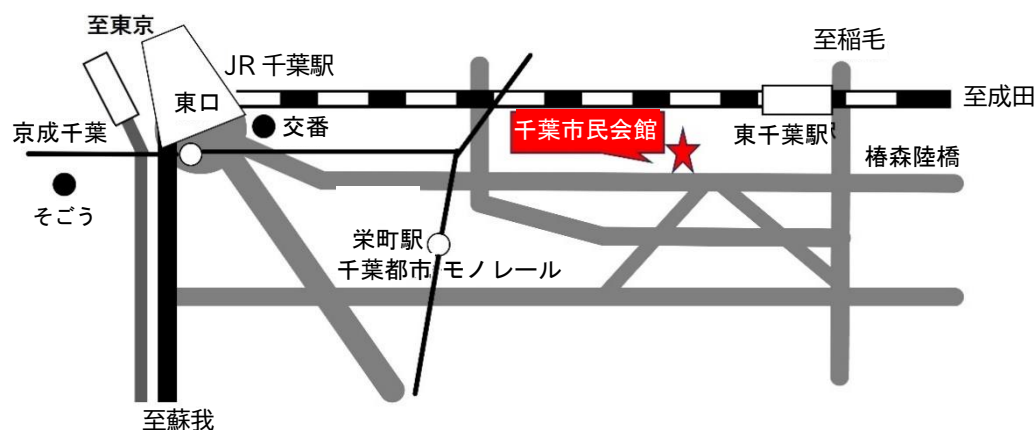
日 時 2024年10月6日（日）開場 13：00 開演 13：30

会 場 千葉市民会館 小ホール ◇JR「千葉駅」東口より徒歩7分／「東千葉」駅より徒歩3分

演奏曲 A列車で行こう オー・シャンゼリゼ 君をのせて 他

問合せ 千葉アコーディオンサークル 090-7278-3607（東谷）

■入場無



..... ホワイトボード（連絡はがきその他より）

♪SHINICHI OMATA / WITH MY DOG RICKY: THE EARLY WORKS OF SHINICHI OMATA
1981-1983 レコード発売記念ライブ♪

日 時 2024 年 10 月 11 日（金）開場 19 時 00 分 開演 19 時 30 分

会 場 四谷・SOUND CREEK Doppo 東京都新宿区四谷三栄町 15-2JHC ビル BF

出 演 ファーカンダ（K O W／ボーカル・ギター、小俣慎一／アコーディオン）
田中ひろ子（ex D E A）

aqubi（ryo sugimoto／keys、yuukitakami／voice）

料 金 3,500 円+1DRINK. 600 円

問合せ 03-6380-4245（サウンドクリークドッポ）

アコ太郎 report

第 1 号
2024 年 8 月 18 日（日）
発行責任者/石川晃雄
☎&FAX 0243-23-4460

記憶にある方もおられると思います。以前、アコ・ネット～f～（アコネットふくしま）の解散をニュースでお知らせしました。先日、その後の様子が送られてきたので紹介します。

暑中お見舞い申し上げます。

あこ f の解散から 8 ヶ月が過ぎましたが、お元気にお過ごしのことと存じます。

私は「アコ太郎」としてまた「アコ太郎座」としてアコーディオンを弾いております。

このほど、不定期ですがアコ情報の発信を行うことといたしました。

月1回「ひまわり」のうたう会

二本松年金者の会の歌う会「ひまわり」は月 1 回の例会を続けております。月初めの水曜日の午後 15 人ほどが二本松の研修センターに集って歌っています。

アコ太郎が選曲・進行、ギターのギタロオさんと二人で伴奏を受け持っています。

6 月の例会では最近発見された本宮出身の伊藤久男さんの新曲「あぶくま川」を歌いました。7 月例会では夏向きのヨーデルなど楽しく歌いました。9 月にはパリオリにちなんでシャンソンは

どうかなと準備中です。

お年寄りの施設でレク

お年寄りの施設でのレクリエーションにと声がかかります。これは「お話相手ボランティア」の活動を通じて社会福祉協議会との縁ができたことによります。ディサービスセンターで 20 人ほどの入所者のお帰りまでの 30 分～45 分ほどのステージとなります。アコの太郎・花子・ギターのともちゃんのトリオですが、次回から女性のボーカリストが加わる予定です。



9 月に 3 回のステージを予定しています。マジックやトークなども入れ 5・6 曲を歌います。

紙面の関係で、次号へ続きます。

■お詫びと訂正

7 月 19 日発行（第 36 回 2 号）の記事に下記の誤りがありました。お詫びし訂正いたします。

① 5 ページ「川越アコーディオンサークル たんぽぽ アコーディオンコンサート」右の段

誤：キネマの天使 正：キネマの天地

② 9 ページ 合唱団「道」55 周年 定期演奏会 ～感謝を込めて～ の左の段 誤：最期 正：最後

■関東アコ 9 月実行委員会 2024 年 9 月 16 日（月・敬老の日）19:00～Zoom 会議予定